

# 石倉洋子先生のご逝去を悼む

経営学部教授 柳川 高行

石倉洋子先生、先生の突然のご訃報に接しました時に私の胸に去来した  
思いは、大きな衝撃とともに、これまでになさってこられた研究教育活動  
と社会的活動とのご成果を何冊かの著作におまとめになるという志半ばに  
して、病に倒られた先生はさぞやご無念で口惜しかったのではなかろう  
かという思いでございました。しかしながら告別式に出席させて頂いた私  
は、石倉先生の女学校時代の親友の方が病室に先生を見舞われた時に、  
「あまり芳しくないのよ」と、ご自分の死期が近いことを淡々と語られ、  
「私はしたいと思ったことはほとんど行なってきたから悔いは全くないわ」  
とおっしゃられたというお話を伺い、死をたじろぐことなく直視されたあ  
なたの凛とした生き方と、省みて悔いのない人生を送られたというその幸  
福を知り、何か救われた気が致しました。告別式の席でのご主人様のご挨拶  
をお聞きしましても、娘さんから別の機会にお聞かせ頂きましたお話か  
ら、石倉先生が妻として、そして母としても実に大きな愛情をご家族の  
方々にも注がれていたのかを私は知ることができました。またご家族の皆  
様が先生を失われた悲しみがいかほど大きかったのかを全身で表しておら  
れるご様子を垣間見させて頂いたことから、家庭人としての先生の存在感  
の重さと大きさを私は知ることができました。

石倉先生と私は専門が違っていたばかりでなく、専門が殆ど全く接点か  
ない位かけ離れておりましたので、研究上や教育上で議論を闘わずという  
機会は全くございませんでしたが、生涯学習委員会で委員長を務められた  
先生とご一緒させて頂き、短い間でしたがお付き合いをさせて頂きました。

先生には、私が論集委員を務めていた際に私の企画致しました「学問への招待」というシリーズに、快くご協力を頂き「環境科学とは何か」（『白鷗大学論集』、第14巻第1号所収）を執筆して頂きました。中々ご賛同が頂けなくて困っていた私を見るに見かねたのでしょうか、あの時の先生のご厚意には文字通り深く感謝致しております。

石倉先生と私との大学の外での接点は、実に思いがけない所で生まれました。3年前のある日私は「とちぎ女性センター」から突然講演の依頼を受けました。なぜ私ができるような話ができると同センターの方が考えたのか想像もつかなかった講演依頼は、「主婦と家族の新しい在り方ー男女共同参画社会に向けてー」というものでした。経営学を専攻し、セブンイレブンや任天堂や少年ジャンプの話をしている私に、なぜそんな突拍子もないテーマの講演依頼が舞い込んだのか大きな謎でしたが、同センターで講演した際に、当時同センターの理事を務めておられた石倉先生の強いご推薦があったので、私に依頼がなされたことを知りました。石倉先生のご配慮で私は私自身も気付かなかった新しい領域に参入することができ、男女共同参画社会論、家族論、主婦論、結婚論、子育て論、家族コミュニケーション論などを講演しており、大学外部の講演の半数近くが経営学以外のものとなり、講演を聴かれた方から「先生のご専門は何ですか」とたずねられたりしております。私の知的関心の方向性に深い洞察力を示して下さいました石倉先生の慧眼に対しまして私は改めて深く感謝するものでございます。

石倉洋子先生、先生の早過ぎた死はご家族の方々始め大学関係者にとりましても大きな悲しみであり痛手でもございますが、私にも言い知れぬ悲しみを残しました。生前に多くの方々に愛されて先生が先駆者として切り開いてこられました、「女性の社会進出」、「男女共同参画社会の土台作り」というお仕事に、私も文字通り微力ではございますが協力して参り、先生から賜りましたご高恩に報いたいと希っております。私自身も、「やりたいと思ったことは殆ど行なった。省みて悔いることは全く無い。」と言ってこの世に別れを告げたいと考えております。石倉先生、先生と同じ職場

で働けましたことを嬉しくまた誇りに思っております。石倉先生、どうぞ  
安らかにお休み下さい。